

有機的管理の北里八雲牛は確かに自然に優しい！

北里大学提供
作成日 2016年2月23日
更新日



研究者氏名 所属機関
 ほうじと まさゆき 北里大学獣医学部
 寶示戸 雅之 フィールドサイエンスセンター
<http://www.kitasato-u-fsc.jp/>
 つつみ みちお *農業・食品産業技術
 堤 道生* 総合研究機構

研究キーワード
 草地管理、LCA、環境保全

主な採択課題
 基盤研究(A) 平成19-21年度(配分総額: 42,770千円)
 研究課題「農業活動に由来するアンモニアの発生実態と生態系影響のインパクト解析」
 基盤研究(C) 平成25-27年度(配分総額: 5,200千円)
 研究課題「資源循環型および自給飼料多給型肉用牛生産システムのLCA」



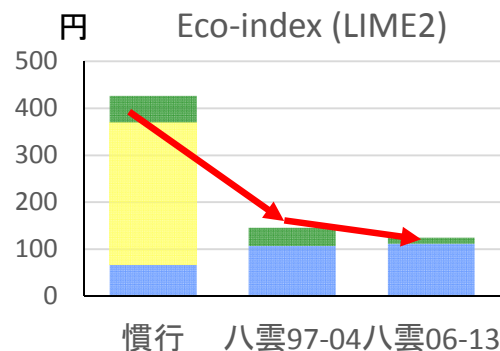
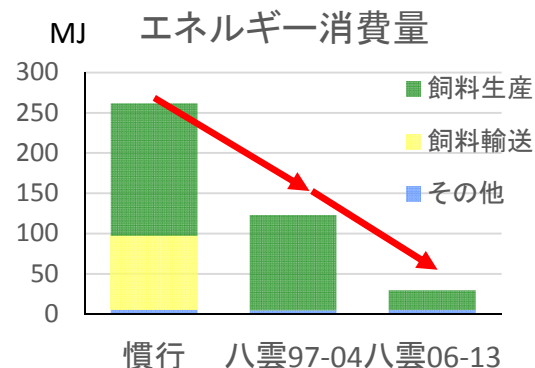
① 科研費による研究成果

- ・日本の畜産は海外から輸入した飼料に強く依存している。その結果、海外情勢の影響を受けやすく、さらに輸入飼料に含まれる養分が日本国内に蓄積し、環境汚染を引き起こすという問題があった。
- ・それを解決する方策の一つとして北里大学が取り組んだのは、海外からの飼料に一切依存せず、さらに化学肥料も農薬も使わないという有機的管理を徹する方式であった。
- ・LCA(ライフサイクルアセスメント)によって有機的管理で肉牛生産を行う八雲牧場を慣行畜産、有機管理導入以前(2004年まで)と比較を行った。
- ・結果、枝肉1kg当たりのエネルギー消費量(左下)、エコインデックス(環境評価指数: 右下)が慣行畜産や有機管理導入前と比較して明らかに低下した。つまり、北里大学の取り組みが環境保全に貢献したことが証明された。

② 当初予想していなかった意外な展開

- ・主たる取引先である東都生協の北里八雲牛の販売実績が急激に拡大した(年間1300→1800セット)。
- ・最大の理由は「安全・安心な国産牛肉だから」というアンケート結果が得られた。
- ・当初、消費者は低価格を最優先に考えるものと想定していたが、環境保全に貢献する国産牛肉の持つ信頼感を重要と考える、理念重視型の日本の消費者の存在が明らかになった。

<http://www.tohtocoop.or.jp/commodities/select100/story/organicbeef/index.html>



③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

この研究の流れを引き継ぎ、有機的管理の有利性を科学的に立証しつつ、この方式の持続性を明らかにすることにより、環境保全に貢献できる安全安心な国産牛肉の魅力を示していける。結果、海外からの安い牛肉に打ち勝つことも不可能ではなく、さらなる畜産農家の発展に寄与することができる。